

1. 〈いのち〉を考える授業
2. 寝屋川市立啓明小学校教諭 川島良介さんの提案を受けて話し合われました。
3. 教材について

川島さんは「教材」についてこのように書かれています。

命について考えていく授業として、今回はペットとしての動物の命を題材に学習していく。

日本では、年間80万頭の犬や猫などの動物が保健センターによって保護され、そのほとんどが殺処分されている。保健センターには、ドリームボックスといわれる小さな箱部屋があり、そこに何頭もの動物が入れられ、二酸化炭素が注入され処分される。「安楽死」という、一見聞こえが良く言われているが、多くの尊い命が奪われていることに変わりはない。

保健センターとは別に、NPO団体のArk（アーク）のような、動物たちの一時的避難シェルター施設が保護活動や里親募集活動を行っているが、捨てられる動物の数が多すぎる為まかない切れていないのが現状である。

こういった保健センターに連れて来られる動物たちのほとんどが首に首輪がついた状態で保護される。つまり、元は人間がペットとして飼っていた動物たちなのであって、捨てられてさまよっているところを保護された動物もいれば、直接保健センターに連れて来られる動物もいる。「かわいい」という衝動的な感情で後先を考えずにペットショップで購入してしまった結果である。

「引っ越すことになり、動物が飼えなくなった」「子どもを多く生んでしまい、もらい手も誰もいなかったから」「飼い主の老夫婦がなくなってしまい、世話をする人間がいなくなったから」など飼えなくなった理由は様々あるが、果たして理由があれば命を捨てることが許されるのだろうか。動物の命と自分たち人間の命の重さはどう違うのだろうか。自分たちが動物を飼うと決めた時、どのようなことを考え、命を飼う決断をしなければいけないのだろうか。

本単元に入る前に児童に事前アンケートを行い、「現在飼っている動物はどうやって手に入れたのか」という質問を投げかけたところ、ほとんどが「ペットショップで購入した」と答えた。その後、本単元の導入の授業で、「選ばれなかった（買われなかった）動物たちはその後どうなるか」という問題提示に、「死んでしまう」と答えた児童はいたものの、保健センター等で処分されると答えた児童はいなかった。そういった事実は知識としてはないようである。今や、ペットショップに行かなくても、インターネット等でも手軽に「命」を買うことができる現代に生きる子ども達に、ペットとの共生について自分なりに考え、クラスでその考えを共有し、命の尊厳について考えさせたい。

4. 学習計画

(1) 導入

①アンケート（筆記） ▼ペットを飼っているか ▼何を飼っているか ▼どうやって手に入れたのか ▼ペットを飼うことについて思うこと

②交流する

(2)保健センターに、飼えなくなった犬が連れてこられる現実を話す。

資料を基に、年間80万頭にもなる、ほとんどが首輪のついた状態で保護される…などの話をしながら、なぜなのかを話し合う。もらわれていく犬たちもある。センターの仕組み。犬の写真やセンター内の写真なども提示しながら。

課題「もらわれていかずに残った犬たちはどうなるのか？」→交流

(3)セントバーナード犬(他の犬でもよい)を教室に連れてくる。

犬と人間の関わりについて考える。

・盲導犬 ・警察犬 ・そりを引く ・人間と犬の関わりについて教師が語るのもいいだろう。
…自由に出し合いながら考える。

(4)保健センターで引き取り手のない犬は、一定期間を経たのちに「殺処分」されることを知らせる。

「殺処分」の仕組みなども、写真、DVDなどを提示して知らせる。

「自分が思うこと、考えること」でノートを書く。

(5)交流、話し合い

(6)犬たちを守るために現在さまざまな取り組みがあることを紹介する。NPOなどら。